

平成30年度 第1回高梁市医療計画検討委員会議事概要

日 時：平成30年5月14日（月）

19:00～19:52

場 所：高梁市役所3階大会議室1

出席者：委員14名、アドバイザー1名、事務局7名

1 開 会

2 会長あいさつ

お忙しい中、平成30年度第1回高梁市医療計画検討委員会にお集まりいただき感謝申し上げます。さて、高梁市医療計画の策定ですが、前回の3月に開催した平成29年度第3回目の検討委員会で事務局から、高梁市医療計画（案）について説明があった。その中で、基本理念を「地域医療は、まちづくり」とし、4つの基本方針を定め、各々、基本方針の解決に向けた施策が示されたところである。

最終的な到達イメージは、全国の中山間地域に先駆ける「地域医療の高梁モデル」の構築としており、高梁市に見合った地域医療は何なのかをこれから皆様でしっかり議論していくことになる。

本日は、パブリックコメントを経て本委員会での最後の高梁市医療計画の議論の場となる。また、今後の推進体制についても事務局から説明をいただく。

皆様から忌憚のないご意見を賜り、実のある会議にしたいと考えているので、よろしく頼む。

3 協 議

(1) パブリックコメント結果及び高梁市医療計画（案）について

資料1、2により事務局から説明

委員：県の計画との整合の観点で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の話がある。これまでは終末期の意思表示という観点から医療を考えてきたが、家族と本人が話し合って考えるという考え方が加わっている。県としても途中から加わった経緯があるが、この地域にも必要な事だと思うので計画に記載したらどうか。

もう1点は、P8の目指す姿の最初の部分で、医療機関のアクセスの表記で、住む場所に関わらず適切な医療にアクセスと言われると新たに医療機関を作ると捉える人もいると思う。表現を変えた方が良いのでは。

会 長：ACPについては国も推進しようとしている。また、アンケート結果でもエンディングノートに関して設問項目があったと思う。

事務局：ACPについては、前回の検討委員会の後に県の医療計画が策定され、ACPの表記がなされている。ご指摘を踏まえ、考えられる検討事項の箇所へ県の記述を参考にしながら修正したい。

事務局：ご指摘のとおり、P8の目指す姿の前段部分で、「市内の地域格差が可能な限り極小化され」という言葉がどの地域にも新しい医療機関を作ると捉えられる可能性はあるので、表現を検討させていただければと思う。

会長：一部、事務局にて修正する箇所はあるが、高梁市医療計画（案）について、本委員会での最終決定として良いか。良かったら拍手をお願いします。

—拍手—

（２）高梁市医療計画の推進体制（案）について

資料３により事務局から説明

委員：新たに設置する高梁市医療機関連携推進部会の名簿だが、このほとんどのメンバーが備北保健所で開催している４病院の協議会のメンバーである。これは同時に開催していくのか、それとも統合する形になるのか。

事務局：現時点では事務局案のものであるので、具体的にどうするかは決めてはいないが、先生方に負担のかからない形で備北保健所と協議を進めていきたい。

４ その他

事務局：本検討委員会はこれまで計４回開催し、本日は、計画策定までの最後の会となった。現在の所感を一言ずつお願いしたい。

会長：会長という立場で初めての経験をさせていただき、勉強になると同時にやりがいがあった。今後ともよろしく頼む。

委員：すごい計画ができ、感慨無量といった感じである。皆さんも既に問題意識をもっている、人口減少の問題の大きな柱となると感じている。健康に関する安心をどうやって住民の方に届けられるかが大事な事であり、実際にやろうとなると困難な部分はあるが、将来を見据えながら実行に移していきたい。

委員：自治体がアンケートを実施され、それを踏まえて医療従事者の声を聞き、将来の医療計画を策定されたという事は素晴らしい事だと思う。これを皆で背負うという責任の重さを痛感している。病院の立場からは、頑張らせていただきたいとお伝えする。

委員：この計画を目にして責任の重さを痛感している。民間病院の立場で職員の確保が大きな問題となっている。現在は毎週、大学の医局へ出向している状況。皆さんの力をお借りしながら頑張っていきたい。行政のお力添えもお願いしたい。

委員：今回示された数字は、かなり深刻なデータとなっている。どこの病院も患者が減り、病床数も減る。認知症の患者も今は増えているが、今後は減ると推計されている。責任も感じつつ、実際推進するにはどうするか頭を抱えているところもある。

委員：膨大なアンケートから今の結論を出された。日々、患者を相手にしているが、こういったことを基本に踏まえながら患者に接することが大切。この計画が我々の背中を押してくれるものと感じている。我々も頑張らせていただくと、地域医療調整会議などでももっと踏み込んだ会議をしていく必要があると感じている。この計画で話す指標が示されたので、今後は各論をしっかり議論していきたい。

委員：今回の医療計画で我々が進むべき方向性が示された。これを地域住民の方々に浸透させないと前に進まないと思う。住民の方の生き方、価値観（ACPも含め）、住民の方の文化にも医療、介護の面から関わっていけたら、この計画が着実に実行されるのではないかと思う。診

療所という立場で地域にしっかり入り、住民の方としっかり対話したいと考えている。

委員：最初は医療関係の会議という事で歯科医師会の立場で場違いかなという感じがしていた。この会議に出席させていただき、医療従事者の不足が深刻な問題であることを知ったし、医療関係者や市職員が真剣に考えられ、立派な計画書ができた事はすばらしい事だと思う。歯科医師でいうと高梁に20人ぐらいの先生がおり、人口の割には、充足している。ただ、歯科衛生士は人数が少なくなっており、計画に沿って募集できればと改めて考えている。

委員：薬剤師がどこに関われるかは未だに考える所であるが、高梁市民の皆さんのために、医療を提供したいと考えている。

委員：看護協会として、医療従事者の厳しい現実があると改めて勉強になった。高齢化の問題など中山間地として抱える問題はあるが、この高梁の地で安心して過ごしていただけるよう、今後一層努力が必要と感じた。

委員：ケアマネ協会として、対象者は高齢者がほとんどである。在宅での医療介護の提供体制をこの計画で検討し、病院の機能を始めとする医療介護の連携が必要だと感じている。医療職でないケアマネが多く、医療の知識が及ばない人も多い。ケアマネ協会としても職員のスキルアップに努めてまいりたい。

委員：会議が始まり議論を深める中で、本当に厳しい医療現場の実情が浮き彫りになった。そういった中でこの計画ができたということは、議会としても本当に真剣に考えながら取り組んでいく必要があると感じている。報告会でも医療を充実して欲しいという声をよく聞くが、実態として厳しい状況なんだということをお伝えしつつ、議会としてもしっかり説明していきたい。

委員：これだけの多くの方が、昼間診療などお仕事をされた後に、この時間に集まって、こういった話をされている事をうれしく思う。「地域課題の解決」や「市民のために」など前向きな言葉をいただき、元気をいただいた。実行するのが難しいというのが、皆さんの実感だと思う。役割を果たしたいと思う人がいる限りは前に進んでいく余地があると考えている。私も頑張るので、一緒に取り組んでいただければと思う。

委員：委員でありながら計画(案)を策定する事務局の立場でもある。検討委員会を開催する中で、ほとんどの委員の方に参加いただいた事にまずもって感謝する。そういった中で、パブコメをとったが意見が出なかった。専門性が高いという事はあるが、いかに市民の方に浸透させられるかが課題と考えており、色んなメディアを通じて浸透させていきたい。もう一つは、深刻な話が多い中で、市だけで解決できる問題ばかりではないと考えており、国・県、関係団体の力を借りながら進めていく事が必要だと考えており、関係機関へのアプローチもしっかりしていきたい。これだけの計画ができたので、地域の医療の力を充実し、継続するための力添えをいただければと思う。

アドバイザー：医療は県の専売特許。地域医療構想など県がやるものとされてきたが、市が独自に医療計画を策定したと類稀に見る動きだと感じた。県内でもこのような動きは聞かないので、貴重な仕事だと思う。医療機関だけでなく、市の関係者全体で作られたという事で、総力戦で取り組むという体制が整った。また、医療機関の先生方が協力していこうという前向きな姿勢が感心した。医療は医療だけでなく、介護は勿論、住まいや交通などまさに、まちづくりに関わる問題となっており、それを明確に打ち出されている事にも感銘している。パブコメを実施し、意見が出されなかった事は残念な事。専門性が高いのも事実であるが、委員

の発言でもあったように、地域の文化に関わる必要があり、住民の方にやさしい言葉で投げかけ、コミュニケーションを図り、市民から理解いただき、住み良いまちづくりに繋げてほしい。

○その他、市広報紙へ掲載するため各委員、アドバイザーにコメント依頼を行った。

5 閉 会（仲田副会長）

長期間に渡り、検討いただき感謝申し上げます。これまでの4回、ほとんどの欠席者もおらず開催された事は素晴らしいことだと思う。今後、どう進めていくかが大きな問題であり、ハードルの高い事だと思うが、出来るだけ計画に沿ったものになるよう、今後とも協力をよろしく頼む。